

令和5年住宅・土地統計調査「住宅及び世帯に関する 基本集計」結果の概要について（青森県分）

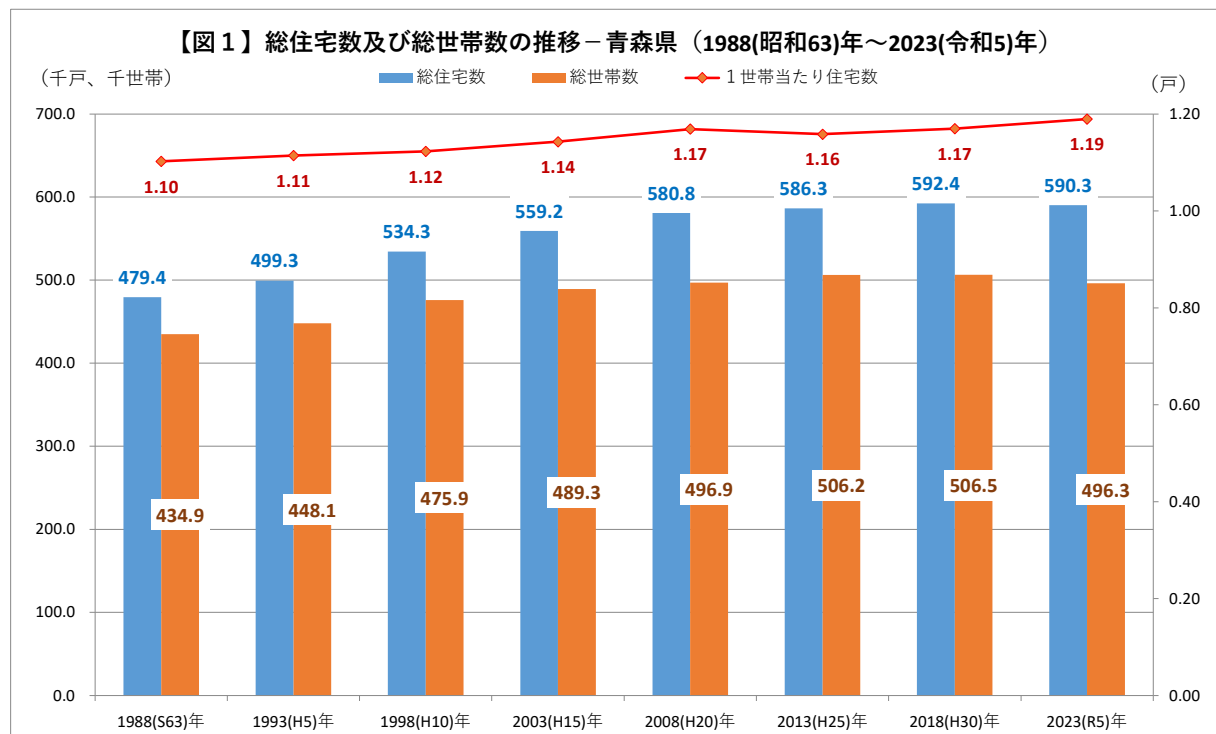
令和5年10月1日現在で、標本抽出により抽出された県内40市町村の約2,000調査区、約34,000世帯において実施した令和5年住宅・土地統計調査の「住宅及び世帯に関する基本集計」結果の青森県分の概要をお知らせします。

●総住宅数と総世帯数

本県の総住宅数は590,300戸で、前回調査（平成30年）に比べ2,100戸（0.4%）の減少となりました。

また、総世帯数は496,300世帯で、前回調査に比べ10,200世帯（2.0%）減少しています。

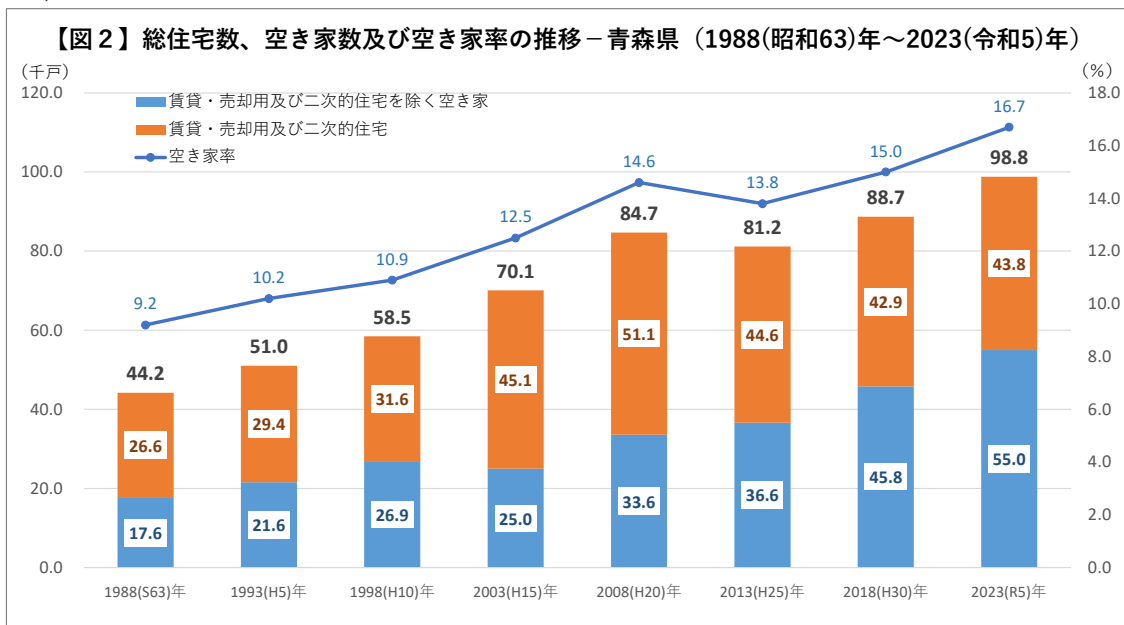
この結果、1世帯当たりの住宅数は、1.19戸となり、前回調査の1.17戸と比べて、若干の増となっています。



●空き家数と空き家率

本県の空き家数は98,800戸で、前回調査から空き家数は、10,100戸（11.4%）増加しています。この結果、空き家率も16.7%と前回調査より1.7%増加し、過去最高となっています。

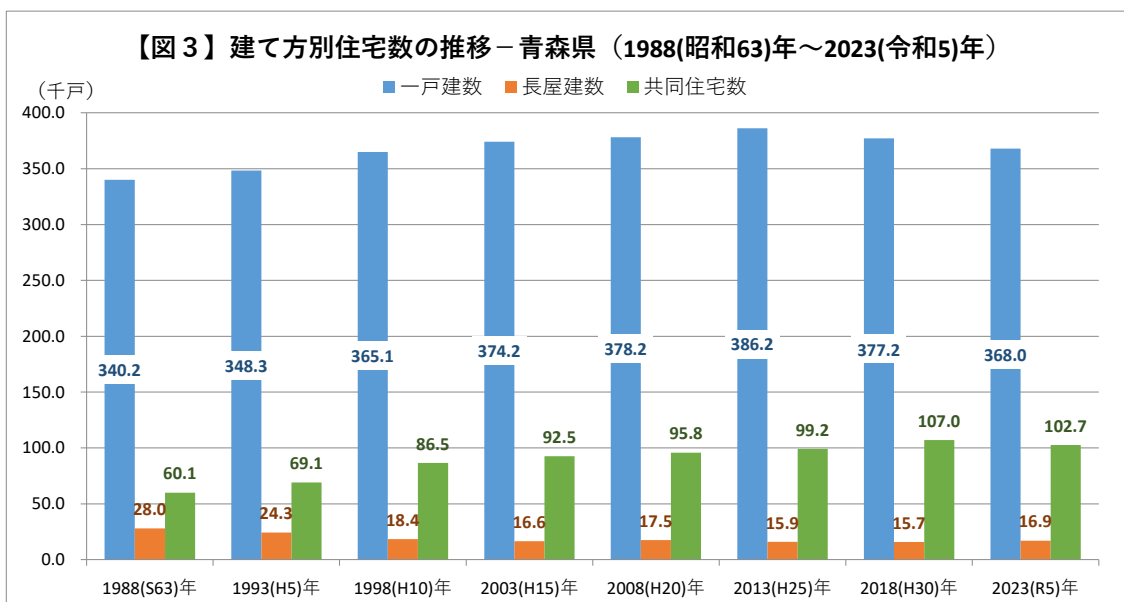
また、空家のうち、「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」は、55,000戸と、前回調査から9,200戸（20.1%）増加し、同様に過去最高となっています。



●建て方別住宅数・所有の関係

住宅数の内訳を建て方別に見てみると、一戸建ては368,000戸（75.3%）、長屋建（注1）は16,900戸（3.5%）、共同住宅（注2）は102,700戸（21.0%）となっています。

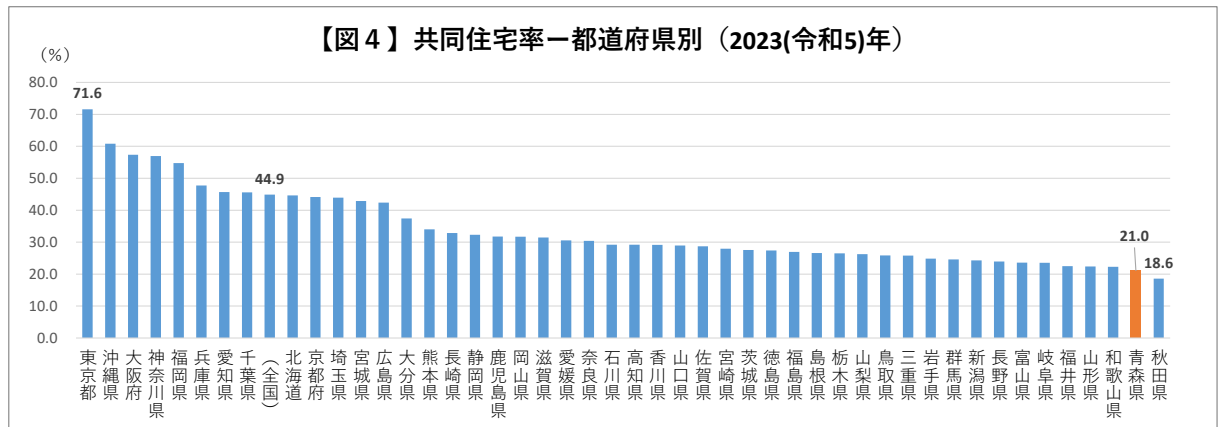
前回調査までは、共同住宅数が増加傾向にありましたが、今回初めて減少に転じました（図3）。



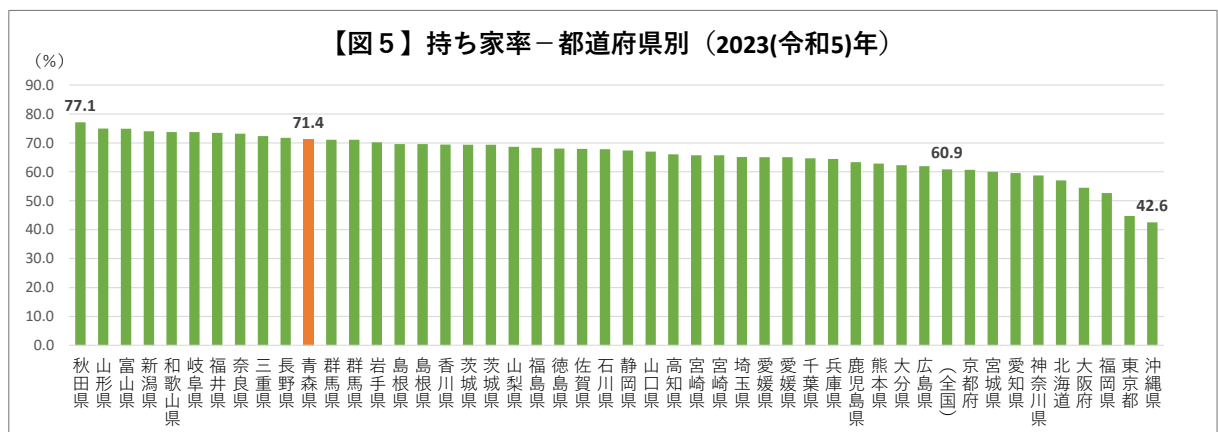
（注1） 長屋建とは、二つ以上の住宅を一棟に建て連ねたもので、各住宅が壁を共通にし、それぞれ別々に外部への出入口をもっているものをいいます。

（注2） 共同住宅とは、一棟の中に二つ以上の住宅があり、廊下・階段などを共有しているものや、二つ以上の住宅を重ねて建てたものをいいます。

次に、都道府県別に共同住宅率を見ると、本県の21.0%は46位と全国の中でも共同住宅が少なく、全国の44.9%に比べ23.9ポイント下回っています（図4）。



持ち家率について都道府県別に見ると、本県の71.4%は11位と全国の中でも比較的高い割合となっており、全国の60.9%に比べ10.5ポイント上回っています（図5）。



●高齢者のいる世帯

高齢者（65歳以上世帯員）のいる世帯は254,800世帯で、前回調査に比べ300世帯（0.1%）減少しましたが、主世帯全体に占める割合は52.1%で、前回調査に比べ1.2ポイント増加しています。

また、65歳以上の単身世帯は71,900世帯で、前回調査に比べ9,600世帯（15.4%）増加し、主世帯全体に占める割合は14.7%で、前回調査に比べ2.3ポイント増加しています。

